

三小だより

新潟市立新津第三小学校

NO. 8

令和4年12月2日(金)

「人に寄り添うということ」

校長

「人に寄り添う」昨今よく耳にする言葉です。心地よい言葉で、教育の場では、「子どもに寄り添う」という言葉に言い換えてよく使います。ただ、ちょっと抽象的な言葉なので、具体的にどのようなことをするのかと問われると、その人の側にいること、その人の気持ちを考えることなどなど、その受け止めはいろいろあるように思えます。

私自身、この言葉を受け止めて考えてみました。「人に寄り添う」ためには、まずは、その人の話をじっくりと聞くことだと思いました。つまり「子どもに寄り添う」であれば、子どもの話をじっくりと聞くことです。学校の中では、いろいろな場面で教職員が子どもの話を聞いている場面に遭遇します。また、「先生、あのね・・・」と自分で伝えたいことを話しかけてくる子どもたちもたくさんいます。ただ、子どもたちの話をじっくり聞いてあげたくとも、一クラス30人以上の子どもたち全員の話を担任一人でじっくりと聞いてあげることはなかなか困難です。

そんな中、新津第三小学校では学級担任だけでなく、学年の先生、級外職員でできるだけ子どもたちの話をじっくり聞けるように努めています。また、毎週木曜日には地域の方が学校に訪問にいらして、休み時間に子どもたちの話を聞いてくださっています。【見守り隊改め、ハローズ3(さん)というニックネームで活動してくださっています。】その他にも、ボランティアの方々も学習活動を支援していただく中で、子どもたちに声をかけていただいております。本当にいつも頭が下がる思いでいっぱいです。ありがとうございます。その他にも、縦割り活動が再開されて、上学年の子どもたちが下学年の子どもたちの話を聞いている場面も多く見受けられるようになりました。

人の話をじっくりと聞くということは、たくさんの時間を要したり、とてもエネルギーを要したりすることです。各ご家庭におかれましても、日々忙しい中で子どもたちの話にじっくりと耳を傾けることが難しいこともあるかもしれません。それでも、子どもたちが1番話を聞いてほしいのはお家の方だと思います。子どもたちは、長い冬休みの中でお家の方にたくさんお話を聞いてもらおうと、きっととてもうれしいと思います。学校でもそんな子どもたちの冬休みの思い出をしっかりと聞きたいと思います。どうぞ、よい年末年始をお迎えください。



R4年度 全国学力・学習状況調査報告

今年度の6年生の全国学力・学習状況調査は、国語、算数、理科の3教科での実施でした。3教科のほとんどの設問において、本校の正答率は全国の正答率を上回る大変良い結果となりました(右表)。

これは、6年生が日々の授業に集中して取り組み、宿題や自主学習などの課題に熱心に取り組んだ結果と言えます。ただ、その中で正答率の低かった問題もあるので、全く改善の必要がないわけでもありません。

今回は、各教科の正答率が特に高かった問題と低かった問題を紹介いたします。

	三小	新潟市	新潟県	全国
国語	76.0	67.8	65.7	65.6
算数	70.0	63.0	61.9	63.2
理科	74.0	65.2	62.9	63.3
合計	220.0	196.0	190.5	192.1

※市・県・全国との正答率比較(単位%)

【国語】

○正答率が高かった問題

①話し言葉と書き言葉との違いの理解を問う問題、②文章の中で間違っている漢字を正しく書き変える問題などの正答率が90%を超え、知識の定着が十分にされていました。

△正答率が低かった問題

友達に自分の書いた文章を読んでもらい、伝えられたよさを文章にまとめる問題では課題が残りました。相手の話の要旨を聞き取り、限られた字数でまとめることがやや苦手なようです。文章を書き上げて終わりにしてしまうのではなく、他者と文章を読み合い、感想を伝え言葉に表す活動を大切にしていきます。

【算数】

○正答率が高かった問題

基本的な計算やプログラムを用いて図形の作図に取り組む問題では正答率が80%を超える問題が多く、学習内容をよく理解していることが伺えました。

△正答率が低かった問題

飲み物の液量を半分にした際の飲み物の濃さを問う問題では、誤った回答をする児童が多く見受けられました。液量が半分になったことにより、濃さも半分になると考えた児童が多かったようです。このように回答に迷う問題と出会った際には、今までの生活経験の中から課題の解決に役立つものがないかを振り返らせます。また計算してすぐに解決ができる問題だけではなく、少し考えさせるような問題にも取り組ませていきます。

【理科】

○正答率が高かった問題

天気と気温の関係、昆虫の体のしくみ、液体の体積の測り方などの問題の正答率が高く、学習の定着が図られていました。

△正答率が低かった問題

観察、実験などで得た結果について分析し、解釈し、それを結論の根拠として文章で記述する問題です。活動を通して得た結果から、どのようなことが言えるかという「結論」を導くことは多くの児童が出来る一方で、その根拠を言葉として示すことがやや苦手なようです。発表の際に考えの根拠を示すだけでなく、今後はその根拠を文章化する活動をより増やしていきます。